

クラシック音楽界に偉大な功績を遺した故・ブーレーズ氏の貴重な舞台裏での映像など全8番組を放送。

3月 世界的指揮者 ピエール・ブーレーズ氏 追悼特集

【放送】 3月8日(火) 21:00～ 4週連続放送

日本で唯一のクラシック音楽専門TVチャンネル「クラシカ・ジャパン」(株式会社 東北新社 東京都港区赤坂4-8-10/代表取締役社長 植村徹)は、1月5日に90歳で惜しまれつつこの世を去った、ピエール・ブーレーズ氏に哀悼の意を表し、3月8日(火)から毎週火曜21:00～に特集「追悼 ピエール・ブーレーズ」を放送します。

現代を代表するフランスの作曲家で世界的な指揮者、そして教育者としてもクラシック音楽界に偉大な功績を遺したピエール・ブーレーズ氏。特集では、40代のブーレーズ氏が指揮する映像や、舞台裏の姿を追った貴重なインタビュー映像など全8番組を放送します。



「ブーレーズ85歳へのオマージュ」©Thomas Bartilla

ピエール・ブーレーズ

1925年、フランス・モンブリゾンに生まれる。パリ国立高等音楽院にてルネ・レイボヴィッツに師事。1958年より南西ドイツ放送交響楽団にて指揮者として本格的な活動を開始。1967年にはクリュヴランド管弦楽団の首席指揮者、1971年にBBC交響楽団首席指揮者とニューヨーク・フィルハーモニックの音楽監督としても注目を集めた。1978年にIRCAM(フランス国立音響音楽研究所)の初代所長に就任、指揮者の活動から退くも1991年に同所長を辞任、再び指揮者活動を再開。1976年、コレージュ・ド・フランス教授に選出、1989年に第一回高松宮殿下記念世界文化賞・音楽部門を、2009年には京都賞を受賞するなど、生涯にわたり指揮者・作曲家・教育者として偉大な功績を遺した。

<放送情報>

3月8日(火) ～2011年ザルツブルク音楽祭～

ベルクとマーラーを指揮したオープニング・コンサートのリハーサルから本番まで。
クラシカ・ジャパンが楽屋インタビューをした際に見せた、柔らかな物腰と語り口は今も忘れられません。

- 【放送】 21:00～21:30** ▼ **オリジナル番組** ウィーン・フィル最前線「ザルツブルク音楽祭2011『オープニング・コンサート』」
- 【放送】 21:30～23:10** ▼ ザルツブルク音楽祭2011『オープニング・コンサート』

3月15日(火) ～次世代を担う若者と共に～

後進の育成に力を注ぐブーレーズ氏のあたたかな眼差し。
今回は、ルツェルン音楽祭でのアカデミーの姿と1981年生まれのパアニスト、ベルトラン・シャミュとの共演をお届けします。

- 【放送】 21:00～22:10** ▼ ブーレーズ「音楽の未来を継承する者たちへ」
- 【放送】 22:10～24:00** ▼ ブーレーズ&パリ管「シャミュと共に」



ブーレーズ&パリ管「シャミュと共に」©CLC Productions

3月22日(火) ～パイロイト音楽祭「シェロー・リング」～

演出のバトリス・シェロー氏も指揮のピエール・ブーレーズ氏も鬼籍に入りましたが、その歴史的価値は今も色褪せてはいません。
舞台裏の貴重な証言と「ラインの黄金」は必見です。

- 【放送】 21:00～22:05** ▼ シェロー&ブーレーズ～メイキング・オブ・リング
- 【放送】 22:05～24:40** ▼ パイロイト音楽祭1980『ラインの黄金』

3月29日(火) ～ドビュッシーとブーレーズ～

40代の巨匠が指揮するドビュッシーと、若き音楽家が演奏するブーレーズ氏の代表作「メサジェスキス」「アンセム2」、
そして20世紀音楽の最高傑作「ル・マルトール・サン・メートル」。

- 【放送】 21:00～22:05** ▼ シリーズ「20世紀の巨匠たち」～ピエール・ブーレーズ
- 【放送】 22:05～23:35** ▼ ブーレーズ85歳へのオマージュ



シリーズ「20世紀の巨匠たち」～ピエール・ブーレーズ© Idéale Audience - BBC - 2008

【クラシカ・ジャパン】ドイツで誕生した世界初のクラシック音楽専門チャンネル「CLASSICA」の日本版で、1998年に開局した日本で唯一のクラシック音楽専門TVチャンネル。話題のコンサートからオペラ、バレエ、ドキュメンタリーまで、毎月100タイトル以上の音楽番組を放送中。クラシック音楽の名曲を、ホールの臨場感とともに毎日24時間お楽しみいただけます。スカパー！プレミアムサービス(637ch)、スカパー！プレミアムサービス光(637ch)、全国のケーブルテレビ局、ブロードバンドTVでご覧頂けます。

■視聴に関するお問い合わせ先■
クラシカ・ジャパン <http://www.classica-jp.com> カスタマーセンター TEL:045-330-2178 (受付時間:平日9:30～18:30 ※土日・祝日除く)

■本リリースに関するお問い合わせ先■
(株)東北新社 放送本部 プロモーション部 担当: 林[m-hayashi@tfc.co.jp]
〒107-8460 東京都港区赤坂4-8-10 TEL:03-5414-0305 FAX:03-5414-0433

<3月>世界的指揮者 ピエール・ブレーズ氏 追悼特集 番組情報

《オリジナル番組》

ウィーン・フィル最前線「ザルツブルク音楽祭2011『オープニング・コンサート』」

【初回放送】3月8日(火) 21:00~21:30

ザルツブルク音楽祭2011『オープニング・コンサート』のリハーサルから開幕までの舞台裏、指揮者ピエール・ブレーズのインタビューなど、ザルツブルク音楽祭のトピックスを交えながら紹介。

[出演]ピエール・ブレーズ(指揮者)ヘルガ・ラブル=シュタドラー(ザルツブルク音楽祭総裁)ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の楽団員たち[制作]2011年

ザルツブルク音楽祭2011『オープニング・コンサート』

【初回放送】3月8日(火) 21:30~23:10

ウィーン・フィルが毎年演奏する開幕を飾るオープニング・コンサート。指揮は当時86歳だった巨匠ピエール・ブレーズ。2011年のプログラムは、20世紀初頭にウィーンで活躍した2人の作曲家アルバン・ベルクとグスタフ・マーラーが取り上げられた。

[演目]ベルク『ルル』組曲(5つの交響的小品)~ロンドノオスフィヤントノルルの歌/変奏曲/アダージョ(テキスト:歌劇『ルル』よりフランク・ヴェーデキントの戯曲よりアルバン・ベルク)、ベルク:コンサート用アリア『ワイン』~ワインの魂-恋人同士のワイン-孤独な男のワイン(テキスト:シャルル・ボードレルの詩集『愚の華』よりシュテファン・ゲオルゲのドイツ語訳)、マーラー:カンタータ『嘆きの歌』(1898/99年改訂版)(テキスト:『グリム童話集』などによりグスタフ・マーラー) [指揮]ピエール・ブレーズ[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、アンナ・プロハスカ(ソプラノ/『ルル』組曲)ドロテア・レシュマン(ソプラノ/『ワイン』『嘆きの歌』)アンナ・ラーション(メゾ・ソプラノ/『嘆きの歌』)ヨハン・ポータ(テノール/『嘆きの歌』)ウィーン国立歌劇場合唱団 [収録]2011年7月28日ザルツブルク祝祭大劇場

ブレーズ「音楽の未来を継承する者たちへ」

【初回放送】3月15日(火) 21:00~22:10

ピエール・ブレーズが贈る若い音楽家へのメッセージ。2004年から本格的にスタートした「ブレーズ・アカデミー」では、オーディションを合格した世界中の有望な若手演奏家たちに、ブレーズが現代作品の演奏を指導していた。この番組では、2年間にわたる「ブレーズ・アカデミー」の模様を紹介。指揮者マスタークラスで『春の祭典』の指導を受ける、現在若手有望株として注目の指揮者パブロ・ヘラス=カサドも必見。若きブレーズと作曲家ストラヴィンスキーの貴重映像もお見逃しなく。

[出演]ピエール・ブレーズ(指揮者)ルツェルン音楽祭アカデミー管弦楽団、ミヤエル・ヘフリガー(ルツェルン音楽祭芸術総監督)カタリーナ・レンガー(ルツェルン音楽祭プロジェクトマネジャー)パブロ・ヘラス=カサド(指揮者)ベアテ・エトヴェシュ(作曲家&指揮者)他[収録]2007年8月~2009年9月ルツェルン、パリ、バーデン・バーデン[監督]ギョウター・アツテルン&アンゲリカ・シュティエラー

ブレーズ&バリ管「シャムユと共に」

【初回放送】3月15日(火) 22:10~24:00

1981年トゥールーズ生まれ。若手実力派ピアニスト、ベルトラン・シャムユが、86歳の巨匠ピエール・ブレーズとバルトック『ピアノ協奏曲第2番』を共演。ピアノの打楽器的奏法など超絶技巧をシャムユの透明感のある美音と閃光のようなピアノタッチでご覧いただける。シェーンベルクの名曲『浄められた夜』とバルトック晩年の最高傑作『管弦楽のための協奏曲』では、指揮棒なしで指揮するブレーズの繊細な指先も必見。流麗なカメラワークが、バリ管自慢の色彩豊かなサウンドを盛り上げる。

[演目]シェーンベルク:浄められた夜 バルトック:ピアノ協奏曲第2番/管弦楽のための協奏曲 [指揮]ピエール・ブレーズ[演奏]バリ管弦楽団、ベルトラン・シャムユ(ピアノ)[収録]2011年12月サル・ブレイル(パリ)

シェロー & ブレーズ〜メイキング・オブ・リング

【初回放送】3月22日(火) 21:00~22:05

1976年パイロイト100周年記念公演は、パトリス・シェロー演出、ピエール・ブレーズ指揮というフランス人による大胆かつ挑戦的な「リング」が生まれた。この「シェロー・リング」は初演当時、オリジナルを愛する世代から非難と猛反発を受けたが、数年の内に観客から絶賛をもって迎えられるようになり、今ではオペラ史を変えた歴史的公演として高い評価を獲得している。この番組は1980年に収録された「シェロー・リング」の舞台裏を描いたドキュメンタリー。若きシェローやブレーズのリハーサル、このプロダクションの仕掛け人でもあるヴォルフガング・ワーグナーのコメント、そして当事者たちの証言が大変貴重。

[出演]パトリス・シェロー(演出家)ピエール・ブレーズ(指揮者)フライアン・ラージ(映像監督)ヴォルフガング・ワーグナー(パイロイト音楽祭総監督)ゲネス・ジョーンズ(アヒュンベルド)ドナルド・マッキンタイア(ヴォータン/バルト)他[監督]ベアテ・ル・ヴァインベルク [制作]1980年

パイロイト音楽祭1980『ラインの黄金』

【初回放送】3月22日(火) 22:05~24:40

映画『ロード・オブ・ザ・リング』をはじめ、数々の作品に影響を与え続けるワーグナーの楽劇四部作『ニーベルングの指環』(通称「リング」)、『ラインの黄金』は壮大な四部作のプロローグにあたる。この番組は、ワーグナー自ら「リング」を上演するため、1876年に創設したパイロイト音楽祭100周年の1976年、パトリス・シェローとピエール・ブレーズというフランス人コンビが、その後のオペラ界の流れを変えてしまった歴史的プロダクション。シェローは権力の象徴『指環』を巡る神話を産業革命の時代に置き換え、古代社会が資本主義社会に変貌する中で、富(黄金の指環)を持った者が次々と支配欲を冒され破滅していくというアプローチを演劇的に取り入れた。この新しい演出は初演当時、激しいブーイングと大論争を巻き起こしたが、今ではオペラ史を変えた歴史的公演として語り継がれている。まさにパイロイトの新時代の幕を開け、オペラの新たな可能性の扉を開いた公演の歴史的記録。

[演目]ワーグナー:序夜と3日の舞台祝典劇『ニーベルングの指環』~序夜 楽劇『ラインの黄金』 [台本]ワーグナー [出演]ドナルド・マッキンタイア(ヴォータン)ハインツ・ツェドニク(ローゲ)ヘルマン・ベヒト(アルベリヒ)ハンナ・シュヴァルツ(フリッカ)マッティ・サルミネン(ファゾルト)フリッツ・ヒューブナー(ファフナー)カレン・レップル(フライア)オトルン・ヴェンケル(エルダ)他 [演出]パトリス・シェロー [指揮]ピエール・ブレーズ [演奏]パイロイト祝祭管弦楽団及び同合唱団 [収録]1980年6月~7月パイロイト祝祭劇場

シリーズ「20世紀の巨匠たち」~ピエール・ブレーズ

【初回放送】3月29日(火) 21:00~22:05

1925年生まれのピエール・ブレーズは、オリヴィエ・メシアン、ルネ・レイボヴィッツに師事。「パリ・オペラ座を爆破せよ」「シェーンベルクは死んだ」などの過激発言でも知られる現代音楽の作曲家としてキャリアをスタート。その後、1960年代より指揮活動を行うようになった。1971~79年ニューヨーク・フィル音楽監督。1976年に現代音楽の実験と研究を目的としたIRCAMの所長となり、現代音楽演奏のために創設されたアンサンブル・アンテルコンタンポランの音楽監督を務めた。世界中のオーケストラや音楽ファンから敬愛され尊敬されていたが、2016年1月5日に90歳で死去した。この番組は、得意としたドビュッシーを指揮する40代のブレーズを見る貴重映像。

[演目]ドビュッシー:バレエ『遊戯』[指揮]ピエール・ブレーズ[演奏]ニュー・フィルハーモニア管弦楽団[収録]1966年BBCスタジオ(ロンドン)[演目]ドビュッシー:管弦楽のための『映像』~『春のロンド』『ジグ』『イペリア』[指揮]ピエール・ブレーズ[演奏]BBC交響楽団[収録]1974年8月4日BBCプロムス(ロンドン)

ブレーズ85歳へのオマージュ

【初回放送】3月29日(火) 22:05~23:35

2010年9月、ベルリンの音楽シーズンの開幕を告げる国際的なオーケストラの祭典「ベルリン音楽祭」では、2010年に85歳を迎えた作曲家兼指揮者ピエール・ブレーズへのオマージュとしてのコンサートが数多く開催された。この番組は、イスラエルとパレスチナの14歳から25歳までの若い音楽家で構成されたウェスト=イースタン・ディヴァン・オーケストラのメンバーが、ブレーズの代表的な室内楽作品を演奏したコンサートのライブ映像。

[演目]ブレーズ: ①メサジェスキス [指揮]ダニエル・バレンボイム(ソロ・チェリスト)ハッサン・モアタズ・エル・モラ[6人のチェリスト]サリ・カリフェ、アルベルト・マルトス・ロゼーノ、ノア・コリン、ヤナ・ゼマナー、リノール・カッツ、ナジブ・アフマディエ ②アンセム2 (ソロ・ヴァイオリン)ミカエル・バレンボイム(ライブ・エレクトロニクス)アンドリュウ・ゲルツォ、アルシア・コント、ギルバート・ソウノ(IRCAMフランス国立音響音楽研究所) [音響]フレデリック・プラン(IRCAMフランス国立音響音楽研究所) ③ル・マルト・サン・メートル(主のない組) [テキスト]ルネ・シャールの詩[指揮]ピエール・ブレーズ[演奏]アルトヒラリー・サマーズ(フルート)ガイ・エシェド(ヴァイオリン)オリ・カム(ギター)カローラ・スドリュエム(ヴィブラフォン)ペドロ・マニエル・トルレイヨ・ゴンザレス(シロリンバ)アディ・モラゴ(パーカッション)トメル・ヤリヤ [収録]2010年9月ベルリン国立歌劇場(ベルリン)「第10回ベルリン音楽祭」